

課題
湖

下弦の月
スピノフ

五味房子の物語

人物

五味房子（59）

榊孝雄（46）

桂田美代子（64）湖畔の宿

夕霧の女将

森住澄江（51）房子の同僚

青沼喜代美（29）

安藤玲後ろ姿のみ

○湖畔の宿・夕霧・館内（朝）

窓の外に真っ白な富士山が雲一つかか
ることなくくつきりと姿を現している。
小豆色の作務衣に紺色の前掛けをした
五味房子(59)が、てきぱきと部屋の片
づけをしている。ふとその手を止め、
窓の外に目をやる。

房子「んく・最高だね今日の富士山・・」
にっこり微笑み、窓辺の方に歩いて行
く。窓を開けひよいと顔を出す。

○同・宿・外観（朝）

湖畔に建つ3階建ての古びた建物。
その2階の窓から房子が顔を出してい
る。両手を思い切り上に伸ばし伸びを
している。

○宿・夕霧に隣接するボート乗り場（朝）
ボート乗り場でデッキブラシを動かす

ている榊孝雄(46) が房子に気付く。

榊「房子さくん、おはよう」

○ 同・宿外観・三階窓（朝）

房子が手を振る。

房子「おく、孝ちゃん、おはよう。今日も精が出るねえ。あそうだ。松さんからすごいたくさん椎茸もらってさ。後で取りにいいよ」

○ ボート乗り場（朝）

榊「了解。ごつつあんです」

○ 同・宿外観・三階窓（朝）

房子「あく寒いね。でも忙しくなるんじゃないの？そっちは。見てよ、めちやくちやご機嫌な富士山。こんな滅多にないよねえ」

湖畔にそびえる壮大な真っ白な富士山。

○ 同・宿・館内玄関

房子が玄関の靴を並べなおしている所へ従業員の森住杉江(51)が顔を出す。

杉江「房子さん、女将さんがお呼びですよ。」

杉江が茶色い袋を房子の目の前で振る。

房子「待ってました。シンガポールの孫にゲームおねだりされててね。ありがとう。すぐ行くわ」

○ 同・宿・事務室

着物をピシッと着た桂田美代子(64)が引出から封筒を取り出し、房子に渡す。

美代子「房子さん、今月もご苦労様。ほんとはよく働いてくれたわ。ボーナスとは言える程でもないけど、ほんの少しだけいつもより多くいれてあるから」

房子「ありがとうございます」

美代子「世の中みんな銀行振り込みなのに、いつまでも手渡しで悪いわね。でも私が女将でいる限り、これが続くと思つて頂戴」
房子「私は好きですよ。銀行振り込みよりも

ずっと・・・」

美代子「あらそう？・・・そう言えばもうすぐあなた、ご主人の七回忌でしょ？」

房子「おかみさん、そんなことまで気にしていただいて本当にありがたいです」

美代子「私が気にしているのはね、あなたがこれからもずっと一人でいるのかしらってことなの」

房子がきよとんとする。

美代子「もう6年も経ったのだから、これらの事もう一度考えてみたらどうかしら？」

房子「・・・と言いますと？」

美代子「本当はわかってるんじゃないの？再婚よ。お相手を紹介したいのよ」

房子、思い切り手を左右に振り

房子「とんでもないですよ。なんか最近私、

どんどん男っぽくなってきてて。それが不思議と自分でも小気味いいんですよ。今更

女性とか男性とか、正直もう面倒で」

美代子「まあなんておかしなこと言うの、あ

なた・・女は死ぬまで女ですよ・・はあ、
と言ったって、無理にとは言えないわね」
房子「すみません、おかみさん。でも気にし
ていただいで嬉しいです。ありがとうございます
ます」

美代子「気持ちが変わったらすぐに言ってち
ようだいね・・今日はね、お客さん二組だ
け。楽だわね。そうだわ、房子さん。今か
ら温泉つかってらっしゃいよ。こぶしの間
の露天風呂、今日なら最高よ。杉江ちゃん
にもそう言ってあげて。3時までゆっくり
したらいいわ」

○ 同・旅館・こぶしの間露天風呂

房子が露天風呂につかっている。目の
前には湖と真っ白な富士山。景色を見
ながら、ふーっとため息をつく。

両手で顔を覆い、そのまま首から胸の
あたりまでお湯をかけるようになでる。
房子がおやつというような表情をして、

もう一度丁寧に右の乳房の上を触る。
何度も触る。手を止め、こわばった表情で顔を上げ遠くを見つめる。

○ 同・旅館・こぶしの間・窓からの景色

小さな雪帽子を被っている富士山。
新芽を出している木々。色とりどりの
花のつぼみが膨らんでいる。

○ 同・旅館・事務室

美代子が机に向かっていている。ノックの
音。美代子が手を止め振り向く。

美代子「はい、どうぞ」

房子が前掛けを取りながら部屋に入っ
てくる。

房子「すいません、じゃ今日はこれで・・・」

美代子「今日、検査の結果出るんだっけ？」

房子「はい。迷惑かけてすみません」

美代子「何言ってるの。今は自分の事だけ心
配してなさいな。きっとだいじょうぶよ」

房子「ありがとうございます」

○ボート小屋近くの湖畔（夜）

薄暗い湖と富士山の景色にポツンと房子の後ろ姿。背中を丸めて膝を抱えて座っている。下駄をはいた足音が近づいてくる。榊がボート小屋の扉を開けて中に入る。房子の後ろ姿は微動だにしない。榊が小屋から出てくる。近くの人影に気づきビクツとする。房子に近づき、なぐんだ。という顔。

榊「もうびつくりさせないでくださいよ。房子さんじゃないですか。そうしているとほんと、幽霊に見えますって」

房子「あく孝ちゃん・・こんな時間にどうしたの？」

榊「それはこっちのせりふですよ・・いや、ボート小屋に小物入れ忘れちゃってね。房子さん、ほんと、どうしたんですか？」
うなだれていた房子が榊の方をパキツ

と振り向く。

房子「ねえ孝ちゃん、おっぱいって大事？おっぱいなくなると人って変わると思う？」

榊が高速まばたきをしながら唇がかすかに動いているが、言葉は出てこない。

房子「ね、千佳ちゃんがもしもおっぱいなくなったらもう奥さんとして見れない？」

息を大きく吸って吐ききったところでやっと口を開く榊。

榊「落ち着いて房子さん。順序が必要ですよ、人に何かを話すときは」

房子「ごめんなさい・あのね早急に手術しなくちゃならないの。今日検査結果がわかってね・・どうでもいいと思ってたのよ。

もう、女性であることも。生きることさえも。でもおっぱい切るのは嫌だ。今死ぬのも絶対嫌」

榊「そうか・あ、ちゃんと手術してくださいよ。おっぱいがあったってなくったって房子さんは房子さんです。僕にとっては何

も変わりませんよ」

房子「孝ちゃん・私ね湖ってほんとは嫌いなんだ。海みたいに打ち寄せる波もないし
広くないし。なんか淀んでる感じがするのよ。悲しみが奥底で堆積しているみたいに
どよんとしてるじゃない？」

榊と房子が薄暗い湖を見つめ沈黙する。
房子がハッと何かに気が付いたような
表情をして榊の方へ振り向く。

房子「ねえ孝ちゃん、お願いがあるの。千佳
ちゃんを裏切るつもりは全くないの。でも
千佳ちゃんには内緒にしてほしいことなの。
あのね、切り取られる前に、私のおっぱい
を見てくれない？」

榊、啞然とする。

房子「それ以上の意味はないのよ。ただ見て
欲しいの。だめかな？」

榊「や・・・でもなんで俺？・・」

房子「孝ちゃん以外私にはこんなこと頼める
人いない」

真剣な顔で榊を見つめる房子。

○ボート小屋の中（夜）

工具やロープが所狭しとばかりに置かれた床の上で房子が洋服を一枚一枚脱いでいる。上半身ブラジャーだけになった房子が、考え事をするように動作を止める。房子と向かい合っている榊は視線を斜め下に落として落ち着きがない。房子が首をキリッと持ち上げ、ブラジャーをはずす。

房子「孝ちゃん・・・」

孝が視線を上げ、房子の乳房を見る。

榊「房子さん、きれいですよ」

房子「ほんとに？ありがとうございます。孝ちゃんは優しいね」

榊「ほんとですよ。俺、めちやくちや恥ずかしいけど勃起してます」

房子がぼかんとする。すぐに我に返り、房子「すっごい勇気出た。孝ちゃんありがと

う。絶対に言えないけど千佳ちゃんにもお
礼を言いたいくらい」

しゃべりながらそそくさとブラジャー
をつける房子。

房子「早いとこ手術済まして元気になって帰
って来るわ」

洋服を着終えてお茶目な笑顔を見せる
房子。

○ 里中大学病院・ロビー（夕）

房子が携帯で話している。

房子「そうなんです。手術後の回復はいたつ
て順調で。このぶんならあと2週間くらい
で戻れそうです。あ、女将さん、お見舞い
は無理しないでくださいね。そちらも私の
抜けた分大忙しでしょうし・・・あと病室が
変なんです。ベッド数が足りないらしくて
婦人科も産科も混ぜこぜの間に合わせみた
いな所で。何とも落ち着かなくて・・・」

ガラーンとしたロビーに房子の声が響

いている。

○ 同病院・308 号室（夕）

引き戸を静かに開けて、房子が部屋に入ってくる。青沼喜代美(29) が窓際のベッドに腰掛けている。房子に気づき会釈する。

房子「あ、もしかしたら今日出産した方ね」

喜代美「はい・青沼です。よろしくお願ひします」

房子「五味です。こちらこそよろしく」

喜代美が隣に寝ている女性の背中に目をやる。房子もつられてそちらを見る。名札には安藤玲と書いてある。

房子が引出に携帯をしまいながら窓の外を眺める。

房子「わく、きれいな半月ね」

喜代美「下弦の月っていう言葉、いいですよ
ね」

房子「うーん、すごいロマンチック・・・」

喜代美と房子が笑い合う。

○ 同病院・308 号室・窓からの景色

夜空にぽっかりと浮かんでいる下弦の月。

完